

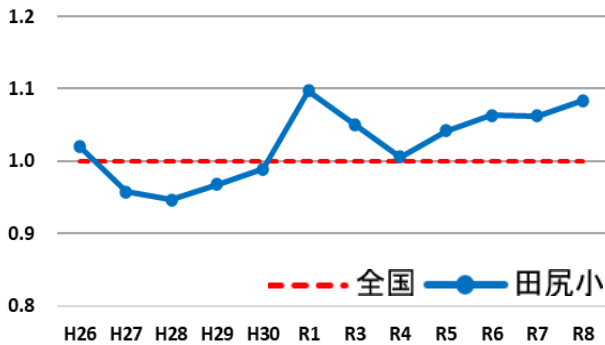
□ 結果概要 **全国平均を上回った**

全体の平均正答率は全国平均を5.1ポイント上回っており、全般的には定着が図られている。また、全13問のうち平均正答数が5問以下の児童の割合は全国平均より9.1ポイント少ない。

一方、全国平均を下回る設問は3問あり、特に「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること（話すこと・聞くこと）」に課題が見られた。

□ 正答率の状況（全国平均正答率を1.0とした場合の田尻町の平均正答率）

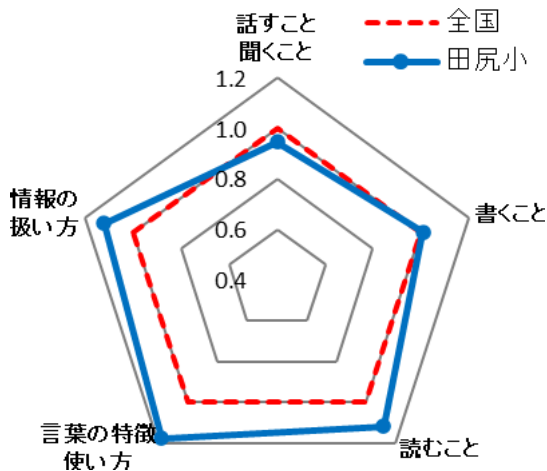
◇ 正答率対全国比 経年変化



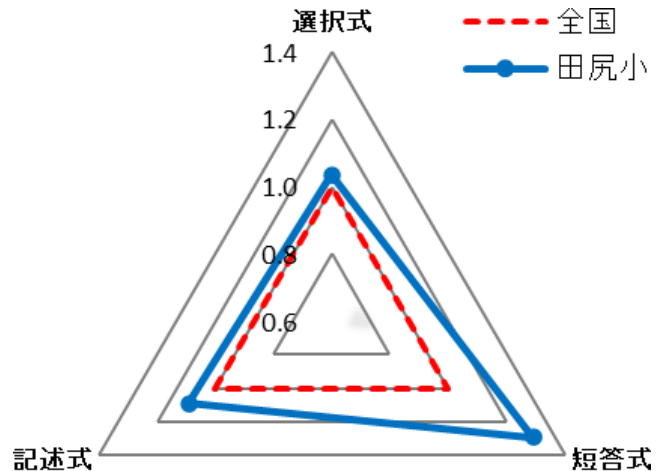
「言葉の特徴・使い方」の正答率（対全国比）は2年連続で上昇し、過去6年間で最も高い。また、「読むこと」の正答率（対全国比）は4年連続で全国平均を上回った。

一方、「話すこと・聞くこと」の正答率（対全国比）は過去6年間のうち3年間で全国平均を下回った。

◇ 正答率対全国比 領域別比較



◇ 正答率対全国比 問題形式別比較



□ 具体的な児童の状況等（○：成果 ●：課題）

○**言葉の特徴や使い方(知技)** 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題について

漢字の書き取り問題は2問出題され、平均正答率は80.1%であり、全国平均を18.4ポイント上回った。多くの児童が、漢字を文や文章の中で使おうとする習慣が身に付いている。漢字を国語だけでなく、他教科の学習や日常の活動においても指導してきた成果である。

○**読むこと(思判表)** 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題について

本問の平均正答率は86.8%であり、全国平均を10.4ポイント上回った。多くの児童が、文章を読んで考えたことを、文章から言葉や文を取り上げ、自分の経験と結びつけてまとめることができている。日々の説明的な文章を扱う授業において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる学習活動を継続的に実践してきた成果である。

●**話すこと・聞くこと(思判表)** 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題について

本問の平均正答率が47.4%であり、全国平均を12.8ポイント下回ったことから、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題があると考えられる。今後、学習指導に当たっては、自分の考えが聞き手に分かりやすく伝わるよう、目的や意図に応じて、音声言語だけでは伝わりにくい内容については、写真や映像、図表などの資料を効果的に活用しながら話すことの大切さを指導することが重要である。

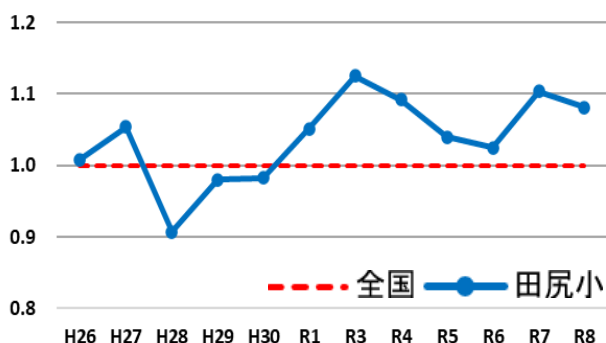
□ 結果概要 **全国平均を上回った**

全体の平均正答率は全国平均を4.6ポイント上回っており、全般的には定着が図られている。また、全16問のうち平均正答率が5問以下の児童の割合は全国平均より8.6ポイント少ない。

一方、全国平均を下回る設問は4問あり、特に「基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶこと（数と計算、変化と関係）」に課題が見られた。

□ 正答率の状況（全国平均正答率を1.0とした場合の田尻町の平均正答率）

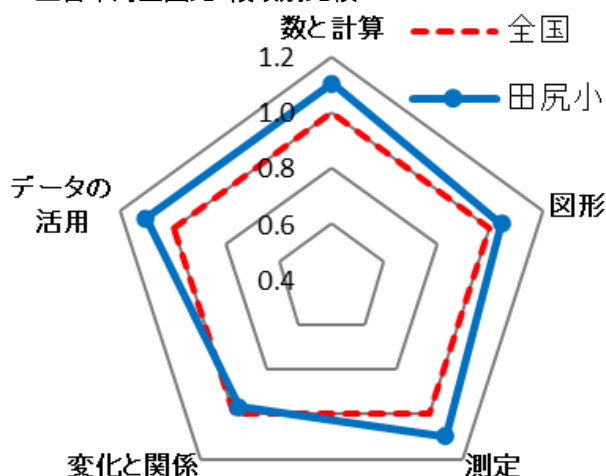
◇ 正答率対全国比 経年変化



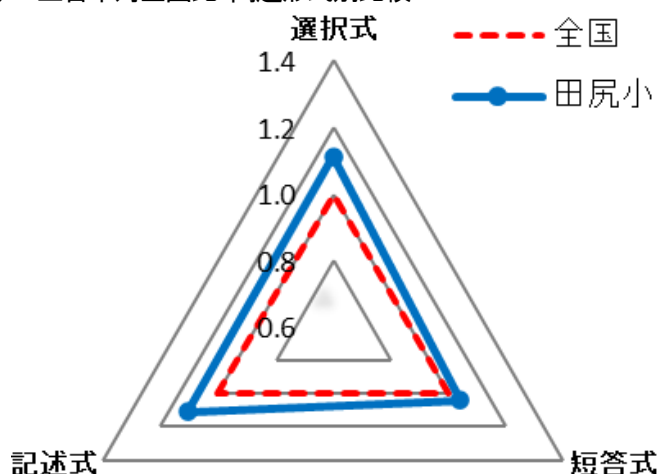
「数と計算」の正答率（対全国比）は6年連続で全国平均を上回った。また、「データの活用」の正答率（対全国比）は2年連続で上昇し、過去6年間で最も高い。

「記述式」問題の正答率（対全国比）は2年連続で上昇している。

◇ 正答率対全国比 領域別比較



◇ 正答率対全国比 問題形式別比較



□ 具体的な児童の状況等（○：成果 ●：課題）

○ **データの活用(知技)** 二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる問題について

本問の平均正答率は26.0%であり、全国平均を8.1ポイント上回った。二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができる。今後も、学習指導に当たっては、示された二次元の表の二つの観点を捉え、各欄の意味を理解させることが重要である。

○ **数と計算(知技)** 単位分数の個数に着目し、数直線上の1を表す目盛りを捉えることができるかどうかをみる問題について

本問の平均正答率は81.8%であり、全国平均を13.7ポイント上回った。多くの児童が、分数の意味や表し方を理解し、数直線上に示された分数を読み取ることができる。今後も、学習指導に当たっては、分数の意味や表し方について具体物や図、数直線を用いて実感を伴って理解させることが重要である。

● **数と計算、変化と関係(知技)** 基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる問題について

本問の平均正答率が28.6%であり、全国平均を5.6ポイント下回ったことから、基準量、比較量、割合の関係を捉えることに課題があると考えられる。学習指導の一つとして、割合について誤った図を取り上げ、その誤りの理由を説明する学習活動を通して、割合の意味について理解を深めることも有効であると考えられる。